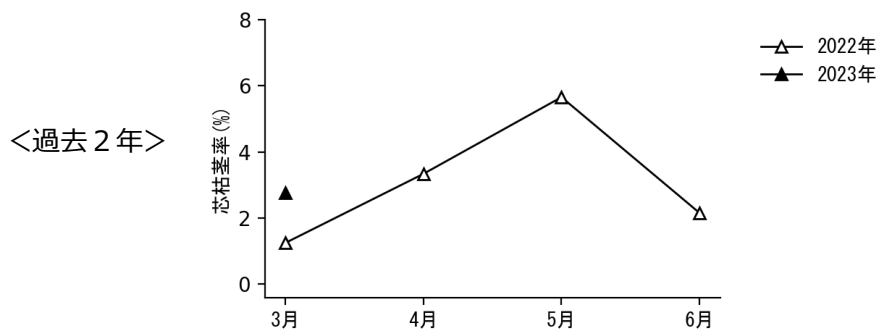
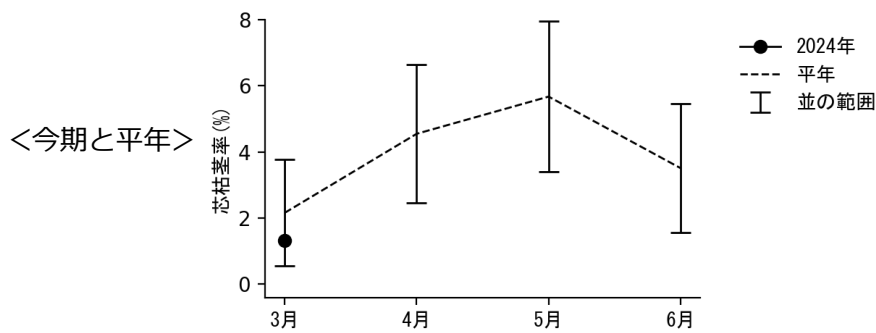


作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報	3 月からの増減傾向	↗		
	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


芯枯茎率の推移 (株出し)



- ・発生種：カンシャシクイハマキ、イネヨトウ
- ・発生ほ場率43.8% (平年：76.0%)

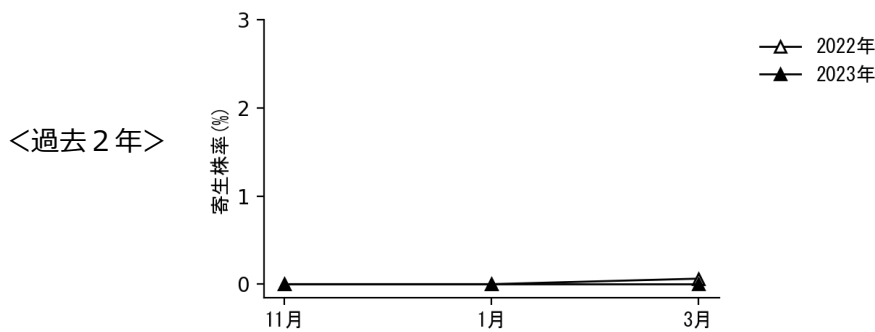
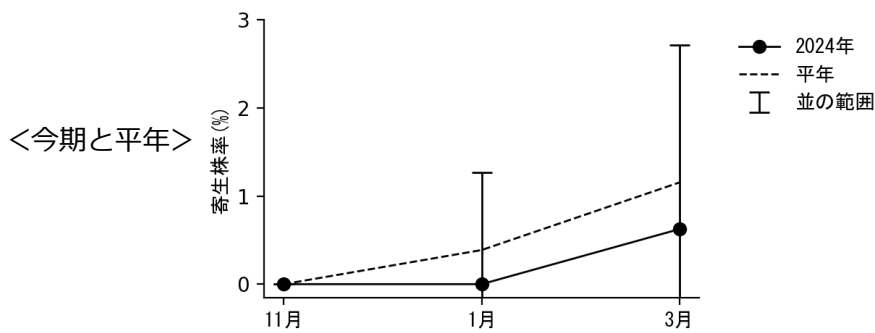
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	カンシャワタアブラムシ		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

寄生株率の推移



・発生ほ場率37.5% (平年 : 28.1%)

防除のポイント

- ・多発すると吸汁害及びすす病によりさとうきびの生育が遅延する。
- ・新植夏植えに秋期に飛来した有翅虫から数世代にわたり増殖する。定着すると春期の大発生の原因となるので葉裏を良く確認して早期発見に務める。
- ・葉裏に寄生する成虫や幼虫に乳剤等の散布を行う。